# 令和６年度全国なぎなた指導者研修会

中学校武道必修化班の研修の様子

**令和６年度全国なぎなた指導者研修会〔主催=日本武道館・全日本なぎなた連盟、後援=スポーツ庁〕は、11 月 22 日（金）から 24 日（日）の３日間、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターにおいて、講師・助講師 11 名、参加者 53 名が出席して実施した。**

**本研修会は、全国でなぎなたを指導する小中学校、高等学校、大学の指導者を対象に「なぎなた」の理解を深め、専門的な知識・技術の充実を図り、もって指導者の養成と資質向上に寄与することを目的に行った。**

## ◆1 日目（11 月 22 日）

開講式では、主催者挨拶として今浦千信（いまうら ちのぶ）全日本なぎなた連盟常務理事が、「本研修会は、指導者の養成と資質向上に寄与することを目的としています。自身の稽古のため、上手くなるため、強くなるためということだけでなく、研修で学んだことをご自身の指導に活かしていただきたいと思います」と述べた。同じく沢登英徳（さわとひでのり）日本武道館振興課主事兼課長補佐が挨拶を行い、最後に松井亮子（まついりょうこ）講師が講師を代表して、「本研修会に様々な目的をもって参加されていると思いますが、３日間で体得したことを各地域や指導場所で活用していただくことを願います」と挨拶を述べた。

今浦千信
全日本なぎなた連盟
常務理事

松井亮子
講師

◆

開講式終了後、今浦講師が全日本なぎなた連盟の基本計画や一貫指導システムにおける生涯武道としてのあり方、指導者育成システムなどについて説明を行い、なぎなたの認知度をどのように高めていくか、中学校体育科「武道領域」での実施校の増加をどのように図るかなどの重点目標を示した。

続いて大道場に場所を移し、中学校武道必修化に特化して、受講生全員が『教師用指導ノート』（全日本なぎなた連盟発行）の４・５時間目「連続して打ってみよう・連続して受けてみよう」の指導内容に沿って、講師陣から指導を受けた。

なぎなたの取り方や置き方、なぎなたの操作、足運びなどの基本動作から始まり、構えや体さばき、上下振り、基本打突について確認。その後、称号者や有段者、初心者に関係なく班を作り、元立ちが円の中心に立ち、一対多数で打突や振りを行った。松井講師から、円を作って行うことにより相手の動きを見ることができるので、授業では効果的であると助言があった。

その後、大道場と研修室の 2 カ所に分かれて実技研修を実施。中学校武道必修化班は、基本動作の復習を行った後、相対になって足さばきや構え、打突を確認するとともに、指揮の号令の仕方について学んだ。

## ◆2 日目（11 月 23 日）

カラーコーンを使用した打突の練習

目的別研修として、中学校武道必修班では初心者を対象に今浦講師と森田美穂（もりたみほ）講師が、1 時間目から 6 時間目までの授業の進め方について順を追って指導した。

教師用ノート 3・4 時間目の「持ち替えて打ってみよう」「連続して打ってみよう」では、カラーコーン（目印）に向かって、打ち返しに含まれる打突を行った。この方法は打ち返しの導入や連続する打突の練習に有効な旨の紹介があった。

6 時間目の「打ち返しを発表しよう」では、発声や打突の部位、半身など、教師が発表を見るポイントを選び、生徒に示すことが大切であることを説いた。

6 時間目終了後、**生徒**自身が**組み合わせ**て考える主体的な取り組みとして「リズムなぎなた」の紹介があり、2 班に分かれて即興で構成を考えて発表した。

森田講師による解説

森田講師から、武道を行う上で「間合」と「残心」は必ず勉強しなければならないが、リズムなぎなたはここに到達するための有効な手段の一つなので、活用してほしいと発言があった。

地域なぎなた指導者班では、二段以下、三・四段、五段以上の 3 班に分け、各課題に応じた実技指導が行われた。

三・四段で防具をつけた小手打ち指導の際、鈴木亘（すずきわたる）講師から、小手を打った際、手につられて前かがみにならずに姿勢にこだわることや突き打ちの際、後ろの手（右手）から出さないように心がけることなどの指導があった。

午後、中学校武道必修化班は、演技競技大会（模擬大会）に向けて、しかけ応じ（1・2 本目）を繰り返し練習。演技競技は攻防を楽しむことが課題であるが、大会を通じて、攻防を実感できる点や生徒が運営に携わることで主体的な学びを感じ取ることができる点は大変有効なので、教材として取り込んでほしいと説明があった。

その後の演技競技大会では、9 チームによるリーグ戦を 3 コートで行い、各コート 1 位通過チーム同士による決勝リーグ戦を行った。

大会出場者の多くは、本研修会で初めてなぎなたに触れる者であったが、わずか 2 日間の研修で所作や長いなぎなたの扱い方を体得しており、判定も拮抗した見応えのある大会内容となった。

演技競技大会の様子

夕食後の活動事例発表では、3 名の参加者から発表があった。太田裕代（おおたやすよ）氏（静岡県）は、コーディネーターの立場から携わった授業実践例の紹介があった。久光重宏（ひさみつしげひろ）氏（宮城県）からは、なぎなたの認知度を高めるための手段として、新聞や HP を活用した情報発信の大切さを紹介。ローシ・キャサリン冨美氏（アメリカ）からは、なぜ異国の地でなぎなたの授業や部活動を指導しているのかなどについて紹介があった。

3 名による事例発表

## ◆3 日目（11 月 24 日）

課題別研修として、しかけ・応じ班、防具班、授業展開班の 3 班に分け、称号者や有段者、初心者に関係なく、各自任意の班に出席して研修を深めた。

◆

閉講式では、沢登振興課主事兼課長補佐が代表者に修了証を授与し、講師代表として松井講師が講評を、今浦講師が主催者挨拶を行い、研修会の全日程を終了した。